

# 心理劇によるグループ・スーパービジョン

深山 富 男

## I 心理劇<sup>①</sup>

筆者は1964年10月より、臨床心理学者、ケースワーカー、教員、学生、一般市民などを主なメンバーとする心理劇を月1～2回の割合で主催して来た。そのなかで1児童福祉司<sup>②</sup>が3回にわたって主演した、児童相談所に於けるケースの処遇をめぐる問題の心理劇上演が、彼にとって明確にスーパービジョン<sup>③</sup>として体験されたので、その過程を報告する。なお、主役以外の参加者についても、主役と同様の効果があったものがあり、その1例についても併せて報告する。

(心理劇集団の構成)

1. 監督 Director<sup>④</sup> 筆者。2. 主役 Protagonist 本ケースの提出者。3. 補助自我 Auxiliary Ego<sup>⑤</sup> 数名。4. 聴衆 Audience<sup>⑥</sup> 数名。計約10名。
- (主役・スーパーバイザー<sup>⑦</sup>)

- ① Psychodrama サイコドラマ。心理的問題を役割演技法を用いて、即興劇的に展開し、問題点を明らかにしたり、新しい角度から再体験したりして解決する方法。主に心理療法、再教育などに使われている。
- ② 児童福祉法に基づき、児童相談所や福祉事務所で児童と保護者の指導に当る公務員。
- ③ supervision 心理療法、カウンセリング、ケースワーク等において生起する担当者の経験を再検討し、担当者の技術を訓練すること。それと同時に、いわば担当者自身の心理療法を併せ行なうこともある。
- ④ 心理劇進行上の責任者であり、治療者集団の責任者でもある。
- ⑤ 心理劇が特定の個人の問題を中心として展開される場合、その個人を主役と呼ぶ。
- ⑥ 心理劇の展開に必要な役割を監督の指示に従って随時とる治療者であり、治療者集団の一員で、患者集団の中に混りこむ。
- ⑦ 主役以外の患者や、全くの観察者などを指す。
- ⑧ supervisee スーパービジョンを受ける人。

## 2 (深山)

26歳の男子。社会福祉学専攻の修士で、本事例の受付時には経験6ヶ月の児童福祉司であり、臨床経験としては、他の児童相談施設で5ヶ月の相談歴がある。心理劇には1年5ヶ月間参加して来た。

## II 症 例

### (児童)

1. 児童名：S. M. s 30. 8. 22生。男。小学校4年。I Q 108 (W I S C)
2. 母親を嫌い、母親が作った食事を不潔視して食べようとしない。母親への乱暴がひどく、また母親とか、母親に関連した言葉を耳にすると嘔吐する。また、母親の持ち物、たとえば下駄を見ても嘔吐する。
3. 昭和40年12月より41年3月までに計約50日の登校拒否をする。登校すると、自分の留守中に、拾ってきては異常に大事にしている動物達（犬3頭、猫、十姉妹、鳩など）を母親がいじめないかという不安があったのも一因と考えられる。
4. 昭和41年4月25日に母親が子どもたちを家に残して、実家に別居して以来、登校が再開し、その他の症状も消失した。6月30日に母親が家庭に戻ると、症状は再び不安定化し始めるが、7月13日以後は、問題行動は消失し、家族も安定を取り戻した。
5. その他の問題行動としては、給食のパンが食べられない、野菜を特に嫌う、睡眠の不規則、頭痛の訴えなどがあった。

### (家族および生育史)

父 34歳。工員。母 32歳。妹 7歳9ヶ月。脊椎分離症。下半身不自由。不就学。弟 2歳9ヶ月。発達遅滞。歩行不能。祖母(父方) 67歳。叔父(母方) 昭和40年10月より居候として同居。関係者としては近くの〇市に住む叔母(父方)があり、本児の5歳時に結婚し、それまで溺愛していた本児と別れて現在地に移る。母親は2人の心身障害児を抱えて、その世話に忙殺され、本児の世話に手が回らない。父親は勤めから帰宅しても、近くの親類の家で時を過ごし、家に落ちつかない。素行の悪い叔父(母方)が同居した頃から、問題行動が出現する。

(ケースワークおよび心理劇の経過)

I 1. 41. 3. 24 受理面接 (第1回叔母との面接) 2. 41. 3. 29 心理テスト。第2回叔母との面接。第1回祖母との面接。3. 41. 4. 4 第1回家庭訪問 (第2回祖母との面接) 4. 41. 4. 5 第3回叔母との面接。5. 41. 4. 13 心理テスト。第3回祖母との面接。6. 41. 4. 18 福祉司指導措置決定。第2回家庭訪問 (第1回母親との面接) 7. 41. 4. 25 第3回家庭訪問 [祖母, 母, 父, 叔父 (母方) 母親の姉の夫, 叔母 (父方)] このあと母親は実家に帰って別居を始める。8. 41. 4. 28 第2回父親との面接。第5回叔母との面接。

II 9. 41. 4. 30 第1回心理劇上演。10. 41. 5. 10 第6回叔母との面接。11. 41. 5. 12 第3回父親との面接。

III 12. 41. 5. 13 第2回心理劇上演。13. 41. 5. 19 第4回父親との面接。14. 41. 5. 25 第3回母親との面接。15. 41. 5. 27 第5回父親との面接。16. 41. 5. 31 第4回母親との面接。17. 41. 6. 2 第6回父親との面接。18. 41. 6. 7 第5回母親との面接。19. 41. 6. 10 第4回家庭訪問。20. 41. 6. 11 第3回心理劇上演。21. 41. 6. 30 母親は家庭に帰る。

### III 第1回心理劇上演<sup>①</sup> (41. 4. 30)

(導入)

バズ<sup>②</sup>のあとで主役が問題提起者になり、現在継続中の3つの症例について言及し、その中の1例について、以下のような問題点が述べられた。

1. 人間関係が複雑なので一番エネルギーを使う。2. 母親が別居したことにより、主訴は消失したが、離婚までさせて子どもの症状をとるべきだとは思われない。3. 子どもの問題というよりは、大人の問題になる。即ち、果してそら<sup>③</sup>まで介入すべきかどうか、アンビバレント<sup>③</sup>な気持である。4. ケースの見通

① 記録内容はすべて録音による完全逐語記録より抜萃した。

② buzz. 集団療法や集団学習などの場合に、成員の参加度を高め、問題の展開を促進するために、更に小さな集団 (2~6名) に分けて自由に話合いのしやすい雰囲気を作ってやる方法。

③ ambivalent 両向的感情。決断のつかない状態。

4 (深山)

しが混沌としていて、あてもなく、行き当たりばったりに訪問している。5. 現在のところ、一番肩の凝るしんどいケースである。

(劇化へのウォームアップ<sup>①</sup>)

1. 監督 そのケースやりましょう。
2. 主役 (笑う) 今日もそのケースばかりケース記録書いていたんですけどね。
3. 監督 出会いは?
4. 主役 このケースは母親も両親も何も訴えて来ずに、父方の妹、この子から叔母さんがある日の午後、突然に、本児いうか、問題の子どもを連れて来たんです。
5. 監督 ではそこから始めましょう。その時を再現してもらったら。(主役)の代りを……
6. 主役 ……男の子、比較的大きいです。……丁度4月4日<sup>②</sup>、上旬だと思います。

(受付時の状況聴取)

7. 主役 ずっといる日ですな<sup>③</sup>……他のケース……今日のはのんびりできるなと思っていてね、大体在所日は面接をとらないことにしている。記録をとりとり、5時までいれば今日は帰れるな。(笑う)
8. 監督 何時頃?
9. 主役 丁度2時頃でしたかね。
10. 監督 それで時間どのぐらい続いた?
11. 主役 初め来た時、叔母さんは子どもを無理やりに引っ張って来た感じ。子どもは手を放すと逃げ出すんですわ。僕はあの、どんなケースか分らないしね。うるさいし……叔母さんに、子どもさんここに待たせておいてくれ言ったんです。この子どもはO市の近くのBという町へ帰ってしまうから<sup>④</sup>、子どもと

① Warm-Up 問題を掘り下げ、自発性を導き出すための準備的段階。

② 実際は3月24日。

③ 外勤しない日。

④ 逃げ帰る。

どうしても一緒にないと困って叔母さん言うんです。それで、私1人でない<sup>①</sup>とどうしても駄目なんですか、と言うので、僕は1人の方がいいんやって頑張っていた。逃げ帰ってもインテーク<sup>②</sup>だし、いいやろうと叔母さんの出方を見ていた。そしたら判定<sup>③</sup>の人が来てね、時間予約があったんでね、その子どもを頼んだんです。見えるからね<sup>④</sup>。そしたら時間無いし、判定がどうしても、もう少し待ってくれ言うし、待たしておいたんです。それでまあ、私早いこと帰りたい言うもんですからね、私一緒に面接してね、子どもと一緒に私いたいんだ、入ってもいいでしょうと僕に言うからね、僕は1人の方がいいんやと、それに、子どものことだから聞かしても悪いというようなことで、いろいろじらしてたんですわ。そしたら……僕は是非とも1人でやろう<sup>⑤</sup>思っていましたからね、叔母さんを。……すぐにテストに回すように手配したんですけどね、予定があつてね、駄目だった。それで、叔母さんだけ相談室へ入って来そうになつたので入れたんですわ。そしたら子どもが出て行ったので……(省略)……それでまあ、逃げよってあかんのやって判定の人に言ったら判定の人が出て来て、先ずるから、と言ってね。予約の人が来てないから言うんで、それで子どもをテスト室に入れといてインテーク始めたわけです。

(役割交換<sup>⑥</sup>によるインテーク面接の上演)

12. 主役(叔母の役割) こんなところで相談していいかどうか分らないんですけどね……食べ物あげる<sup>⑦</sup>んですよ。お母さんが嫌いでね。お母さん行け言つてね、……この時は叔母さんはお母さんについては殆ど言わなかった。住所も、自分の育ったところの住所もまともに覚えていないほどに激しい。どんな問題ですかって放っておいた。……あのね、お母さんの作ったものは皆あげて

- ① 子どもと離れて別々に面接すること。
- ② intake 受付
- ③ 臨床心理判定員。
- ④ 相談所が小さく、玄関での会話が、職員室から見える。
- ⑤ 叔母1人を子どもから離して面接すること。
- ⑥ 逃げ出したこと。
- ⑦ Role Reversal 2人の演者が役割を交換して、夫々相手の役割をとること。
- ⑧ 嘔吐する。

6 (深山)

しまうおばあさんの作ったものしか食べない。それに学校も45日間も行っていない。本人からそういう手紙を貰ったんです。私はO市に住んでるんですけどO市へ呼び寄せて、3月20日の晩からね……あのインテークは3月23か4だったんです。……(省略)……お母さんのことを連想したのか、げえげえやり出した。そういう状態では帰せない①ですね。お母さんが悪い思うんですけど、先生どう思われますか？

13. U (児童福祉司の役割) お医者さんは？

14. 主役 お医者さんもね、どこも悪いとこないって言うんです。……(省略)……家庭環境を変えないとこんなもの直らないとおっしゃったんですわ。先生これどう思われますか？……………

(省略)

15. 主役 ……なんせ、おばあちゃんが家のこと皆するからね。Sはね、その、おばあさんのこと思ってね、お母さんに家のこと全部させ、言っておこってるんです。その、うちのSちゃんとの母ときたら「どら」言うか、家のことなんにもしないでね、主人とでも、私の兄②とでも夫婦げんかを子どもの前で平気でやるしね。兄もいけないんですけどね。子どもの前で母親をぼろくそに、阿呆とか馬鹿とか言うしね。それも悪いんですけど、しかし、そこで僕があの、あ、そうか、……それでまた、家の妹とか弟の洗濯は全部お母さんにさせて、僕のもの、おばあちゃんにやってもらうんだと言うんです。そりゃあお母さん嫌いね。もうお母さんと言っただけで青筋立てて、こうやるんですよ。……もう本体僕の覚えてる内容はもう……1時間ほどやったんですけど、何を言ったか。(笑う)

16. 監督 ここでもう1回その続きを……

17. 主役 まあ僕が覚えてる内容ね、あと繰り返して、あととは聞いていってね……叔母さんの言うことをはっきりさせて行った。

18. 監督 今まで聞いたことをね、なんでもいいから。

19. 主役 Sのこの問題は家庭が問題だと思うんですわ、先生。家庭が解決さ

① 母親のところへ帰せない。

② 母親の主人。

れない限りはね、直らないと思うんです。それで私は別に関係ないんですけど、実家のことを思って連れて来たんです。……(省略)

(省略)

20. 主役 僕は今のね、感じ出ないですけど、本当はもっと髪を逆立てて物凄  
い剣幕で、お母さんの非難で……で最後に、帰りしなに、私は関係ないんだ、  
というようなことでね、言うわけでね、今のようなNさんの疑問をもっとこう  
最後に言うたわけです。私はね、どうせもう、あの、この家から出た人間だ  
し、直接関係ないんですけどね……(省略)

(省略)

21. M(補助自我) 叔母さんとお母さんとの関係と言うのは……

22. 主役 それは……僕はこう思うんやけど……なんて言うか、叔母さん  
の方があれだけ……嫁に行っていない感じ<sup>①</sup>

23. 監督 実家を監視しているわけ

24. 主役 ……(省略)……判定と言っていたんだけど、実家に干渉して、精  
神的にはおばあちゃんの娘でいると僕は思うんですけど。

(省略)

25. 主役 ……(省略)……ただ、なぜアポイント<sup>②</sup>をおばあさんにしぼったか  
は、判定の方としては、叔母さんがあれほど干渉がましくやっているんなら、  
おばあさんと呼ばば出て来るだろう。

(省略)

26. 主役 ……(省略)……判定としては、叔母さんが家族と問題を起こし  
て、小姑が帰って来て、家をかき回している、という形で起こっているから、  
叔母さんを出来るだけ介入させない方法をね。

27. 監督 そういう方針を立てたわけですね……叔母さんを離していこう……  
(ええ)……それはどういうわけですか?……その小姑を離すということ

28. N(補助自我) 分らないんですけどね。問題を感じてられるのは叔母さ  
んが感じてられるんで、家の人は感じていないんで。感じている叔母さんをオ

① 精神的に実家の娘であり続けること。

② 相談の予約。

ミットしてしまう

(省略)

29. 主役 …… (省略) ……あなたは (判定員に向けて) 叔母さんの方のね、ああいうヒステリー症状の継続治療出来ないもんですかねって言っておったんですけど、判定の人は、ええもう全部君にまかすわ……僕、もう2つも一遍に背負い込んだらね、そんな、こっちこんがらがってしもうて……言うとなら、それがまともに来たわけですよ。ちょっと立場の違いを連続<sup>①</sup>でね。10時から11時、11時から12時と、こうやらんならんはめになって来て、それで今週の木曜日 (2日前)、そんなんでそれでもう弱ったなあと思って、その時もまた、言うてたんですけど、判定とね。夫婦、微妙な違いだからね、余計こっちはしんどいし、叔母さんの方だけでもね、頼めへんかなあって<sup>②</sup>

(省略)

(叔母の役割演技)

主役による叔母の役割演技は、初めは実際の叔母の急テンポに較べて非常にテンポが遅く、従って児童福祉司の役割をとる補助自我が受容的な反応<sup>③</sup>をする時間的余裕を与えてしまう。主役は現実の叔母との面接と、補助自我の行なう主役 (叔母の役割) への反応との差異を意識するにいたったことから、自分が叔母を受容できなかったことに気付くようになる。役割演技を2回、3回と繰り返すうちに、主役が演ずる叔母の役割演技は、現実の叔母が相手に反応させる余地のない話し方をする程度のテンポには接近する<sup>④</sup>。

(叔母への拒否的感情と判定員との葛藤)

判定員はしんどいから君にまかすと言って、ケースの分担を拒む。主役は子どもと叔母の2つを背負い込んだらこんがらかると感じる。問題を感じて自かろう来所した叔母に対する拒否感情が、判定員との葛藤に重なる。

① 41. 4. 28 第2回父親との面接。第5回叔母との面接。

② 親 (代理者) の面接と、子どもの面接を別々の職員が分担すること。

③ simple acceptance 理解できた相手の発言内容と、それに含まれている感情を相手の使う言葉でもって明瞭に言ってやること。

④ 筆者は録音の再生により初めて明確にとらえることができた。

(第3回家庭訪問場面の叙述) (省略)

(叙述体の変化。第5回叔母との面接。41. 4. 28)

30. 主役 それで僕がね、児童相談所の機能をまあ一寸説明したわけです。おそらく、どうしたらいいでしょうっていうようなことをね、叔母さんも言われたし、叔母さんもおそらくそういうような状態で聞かれてる感じですからね。だから、あのう、われわれにまかされたけど、いろいろ原因ね、さぐって、原因を突きとめて、解決を見出していく……時間も要る……協力も要る……そんな難かしい言葉は言わないですよ。 (笑う) ……俗っばい……それでまあ……われわれはS君の近くの人に、S君の状態を詳しく知ってる人からもっと具体的に詳しく聞かせてもらうことがね、やっぱり状態を……非常にためになるから……その意味であなたはね、5年間一緒に暮しておられて、今も時々帰ったり、関心があるわけだし、そういう……僕はやはり協力して欲しいんです、と言ったわけです。そういうふうに、それはまた、最後にも言ったわけです。けどね、「私はもうこんなん知りませんわ」なんて言うからね、また言うというやらんと具合悪い思ってね……そしたら、Sのお母さん嫌いの状態というのはどんな状態なんですか？ 前来られた時にね、お母さんのことを言ってね、げえげえとか吐いてましたけど、どの程度のひどさなんですかって、僕そんなに問題にするほどぐっとなったりするんですかって聞いたんです。そしたら (笑う)、お母さんのこと言ったらSちゃんは私の首をかあって、こうするんですよ。一遍私の家に連れて帰った時ね、なんか拍子にお母さんの話したんですよ。したら……「お母さんなんてね……お母さんでなしに、あれは狼、いつもがあがあおこるから狼なんだ。あんな奴、殺してしまうんや」って、きいっと私の首をつかみに来るんですよ。で、2度目も何か言ったんですけどね、その時も、こうやってもうそれこそ気狂いみたいになって、おばあさん連れて来てもらう時にも、お母ちゃん、気狂いにしてしもうてやると言っって、こうやったんです。…… (省略) ……いやこうやっただけなんです。……こういうことを、なんか5、6遍僕の前で表現してね、ここが真赤にこう……なんかそうなったんです。それで……ああ順番狂ったかな……あまりその時のこと覚えてないですけどね……案外……ああそうか、その叔母さんの家庭事情聞いたんです。(主

10 (深山)

役は叙述に終始し、劇化には至らなかった。)

(叔母の受容の問題：最終場面。役割演技は行なわれず、主役の叙述内容を抜萃した。)

31. 叔母 まあいずれにしても私には関係ないことですし、あんな子ども知りませんわ。あんなお母ちゃん。…… (省略) ……

32. 叔母 私等関係ないしね。どうなってもいいようなもんですけどね。もう私はもう、こんでやめとこか思ってますよ。僕は、その、すぐに

33. 児童福祉司 やめない方がいいですよ。そらあ、やめない方がいいですよ。…… (省略) ……

34. 児童福祉司 そんなこと言わずに、矢張り一緒に5年間も育てて来られたんで、そして、そういう状態なんだから、あんたもできるだけ協力して問題解決しないですか。そしたらむしろ余計駄々っ子のように

35. 叔母 私はもう、そんなん関係ないですわ。あんな子、もう知りませんわ。…… (省略) ……

36. 児童福祉司 S君の状態を知る上に資料を欲しいという意味で、あんたに参加してもらわないと困るんだという意味のことを言った。で

37. 叔母 もう、私はもう、こんな2度ともう関係しないでおこう思ってますよ。もう、こんな、もう兄夫婦の子ですしね。私にしたら、結局私の問題…もう知りませんわ。あんなの、もうなんとでもなったらいいと思ってんですが、と言ってそのままぱっと帰ってしまった。

38. 監督 その時にどういう反応をしたんですか？知りませんわ、と言うのに対して。

39. 児童福祉司 ええ。そんなことおっしゃらずに、また待ってますよ、って (全員爆笑)<sup>①</sup>

[第2回家庭訪問 (第1回母親との面接) 41. 4. 18]

① acceptance 相手の気持を非難や批判することなく、ありのままの姿で理解し、受け入れること。ただし、必ずしも是認するわけではない。既出の受容はその技術をさす。(8頁註3参照)

② 以上の過程を最後に役割演技法で行ない、討議に入る。

劇化に成功する（省略）

（討議）

監督やNから、叔母に対する受容が不足しているのではないかと、意見が出る<sup>①</sup>。主役もその点について、演技や陳述中に次第に気づき始めていたので、批判を認めることができた。

主役は叔母との公式的な面接段階<sup>②</sup>が終ったという意識をもった瞬間に、いわば非公式的な反応として、受容を忘れた反応をした。主役は専門職的役割と個人の振舞との間の落差を非常に大きいものと知覚している。

（第1回心理劇上演の概要）

1. 叔母の攻撃的饒舌さに対する拒否感情の形成。2. 叔母にヒステリー性格というレッテルを貼る。（先入見の形成）3. 叔母に関する判定員の意見の取り入れ、あるいは、それによる強化。4. 叔母の面接に対する判定員との間の押しつけ合い。5. 叔母との面接場面での受容の欠如。6. 叔母への受容性の回復。7. 叔母の問題性から、母親と、同居中の母親の弟との関係に焦点が移る。8. 心理劇上演は不十分で、叙述が行なわれたが、経験を生々しく再現することはかなり成功した。

#### IV 第2回心理劇上演（41. 5. 13）

（導入）

40. バズの後で、主役は前回のケースの焦点が別の方に移った感じがする、と報告する。そこで今回も、引き続き主役のケースを取り上げることにする。

（再上演の現在の意味）

41. 監督は前回の一部を主役の指図で上演するように指示する。しかし前回の内容を明瞭には憶えていない人が多いことが分る。

42. 主役は「……今の、なんか意識がね、今覚えてるところの方が沢山入って

① 面接番号27, 28参照。

② formal stage 改まった態度で行なわれる面接段階、という意味であり、主役にとって、面接の段階には二段階の意識構造があるという点が注目される。

12 (深山)

くるような感じがしますね」と述べるが、

43. 監督 それでも構わないことにして、面接場面を設定する。しかし初めは、主役は口だけで説明したが、役割演技への抵抗を示す。

〔第3回家庭訪問場面(41. 4. 25)の上演〕

父、母、叔母、叔父(母の弟)の居合わす場面での家庭訪問を上演する。主役には叔母の役割のダブル<sup>①</sup>をしてもらう。しかし、再び叙述をしたがるので、

44. 監督は主役にダブルの役割に留まるように重ねて指示する。

(省略)

45. 主役(叔母のダブル) 大体、この機会だから洗いざらい言いますけどね。私としては、この際、お母さんに帰ってもらって、Sを連れてお父さんとわらびとりにも来いと手紙に書いてもらってね、それで、本人がその気になったら連れて行く。その時まで母親に帰ってもらったらどうかなあ、とこないだも言ってたんですけどね。

(省略)

46. 主役(叔母のダブル) れんげ摘みにあの子、連れてったんですけどね。それは喜んで、もう、げえげえもやらないし、なんでもないんですけども。あの、お母ちゃん見た途端に、殴るしね。こないだも「お母ちゃん、風呂に入れてやってん」、それはもう、ものすごく喜んで飛んで帰ってきて、おまけに風呂に入れてやったのかなと思ったら、お母ちゃんずぶ濡れになってるんですよ。それで聞いてみたら、バケツの水を母親の洗濯している上からぶっかけて、それで逃げて帰ってきたんです。そんなんですからね。一度、お母さんが、一度、あの子を離してしまった方が。

(省略)

47. M(父親の役割) 第一よく聞いているとね、うちの家内の悪口ばかり言っ、第一に他人が口を出すのがおかしい話で。(母親に向って)一寸来てごらん、こっちに。

48. 主役 お父さんもその時に姉さん(妹の間違い)の感じに巻き込まれてい

① double 同一の役割、あるいは人物を、2人で同時に演ずる場合、一方の人を他の人のダブルという。二重自我。

てね。一緒になって、こう、お母さんのことを……

49. M (父親) ああ言うんですか。(全員爆笑)

50. 監督 あんた、フェミニストだから。(全員爆笑)

(省略)

(主役は再び叙述へ固執し始める)

51. 主役(叔母) ……(省略) ……「一寸あんたも何か言いなさいよ」って、  
こういうふうに……

52. 主役(叔母) ……(省略) ……「ようあんなんばっかり揃ってるわ」  
って、それで文句言うんですよ。

53. M (父親) まあ、ごらんの通り、やかましい、うるさい家庭でしてね…  
…(省略) ……

(省略)

54. 主役(叔母) 僕はその状態、一寸出せないですわ<sup>①</sup>……(省略) ……あの  
子(母親)がいるためにSがこうなったんだし、あの子さえいなかったら、う  
まいこといくんだしね、一寸……私はさっさと帰ってもらった方がいいと思  
うんですよ……(省略) ……

55. 主役(叔母) ……もうこんなん、あの子がおったら、第一おばあちゃん  
が可哀そうで、死んでしまいますから、Sはお母ちゃんが死ぬまで精神的に苦  
しくてやるなんて、難しい言葉を使ってね。……殺してしもうたる、と言  
うてる……もう、そのとぼっちりが、そんな親子げんかしたら、おばあちゃんが  
構いに行くでしょう。おばあちゃんも血がたらたら出るなど血が出て。大体、  
母親が死ぬんじゃないくて、おばあちゃんが衰弱してしまったら困るでしょう。  
それに兄ちゃん(父親)ときたら、なんにも知らんと、ただ会社に行くだけ  
でね。それに、家に居てないでね。お兄ちゃんもお兄ちゃんですよ。もうちょ  
っと、あの子の夫ならね、もう一寸したらいいと思うのに、変った、将棋もな  
にもささないし。……

(省略)

56. M (父親) あのね、あの、先生はやっぱり、母親というものは、子ども

① 叔母さんが髪逆立てんばかりのものすごい状態であったこと。

14 (深山)

の側にいた方がいいという意見なんです。

57. 主役 (叔母) 先生そう言わはんの。私もそう思うんですよ。それに、母親が勝手に、もう帰るなんて言い出して。あんたも (母親に向って) こっちへ来て聞きなさいよ。こう全然、もう<sup>①</sup>。……

ここで導入を打ち切る。その間主役による叔母の役割演技も自然で、内容も豊富になる。

[叔母から叔父 (母方) への問題性の焦点の移行]

58. 監督 それでね、要するに、何がその後の発展で重大か？

(省略)

59. 主役 …… (省略) ……あのう、お父さんと叔母さんと連続面接<sup>②</sup>やって

60. 監督 ……じゃね、最近の体験を、そこでモノローグ<sup>③</sup>で、ディスカッション

(省略)

61. 主役 叙述でいいですか。説明でいいですか。…… (省略) ……お父さんと1回やった時…… (省略) ……弟に対しては、あの不器用で物言わずの、物言ってもはっきりしない母親が、弟に対しては、逆に反対に、非常に気がついて物もはっきり言うし、なんか、こっちがやくような親切をするんだ、というような点で終わった。…… (省略) ……

62. 主役 ……叔母さんにはがきでアポイントしたわけですけど10時前にちゃんときてくれまして…… (省略) ……

63. 主役 ……その内容は、大体、叔母さんは非常に安定いうか、非常にゆったりした感じで、ぼつりぼつりとしか母親のこと言わなくなって、結局、もはや夫婦関係の問題だから、結局は、あの子のことを、お父さん次第だというよ、その辺が中心になったわけです。

64. 主役 それで、昨日の金曜日のお父さんの面接<sup>④</sup>では、結局、弟さんの話が

① 主役自身の説明のための言葉。

② 41. 4. 28

③ Monologue 独自法。

④ 41. 5. 12 第3回父親との面接。

中心になって、実は弟は去年の10月から居候で家にずっとおったんだと、それで、あの、その時から、家内とはそういう関係で、私が羨むほどだから、やはり、子どももやいたんじゃないか、と……(省略)……

65. 主役 今よく考えてみると、その弟が居候するまでは、そんな、母親に乱暴を働くようなことも全然なかったように思う。……(省略)……

(完全なモノローグ)

66. 監督 ここで、叙述的、説明的な話を完全なモノローグにするように指示をする。

(母親の別居以後のケースワークの問題)

67. 主役 ……(省略)……今、思い浮かんできましたから。僕はこの面接が終ってから、あの、沈黙などが続いた時に考えたことは、父親はえらくこうアンビバレントな状態で、なっとるなと、しかし段々、まあなんとか目処がつくやると、それでまあ、この状態だったら父親が面子を考えて行かないこととなると、こちらから母親の方の親類、母親の親族、向うの両親に対して、何か積極的な手を打った方がいいかなあと思ったり、それから、そうなると、かえってお父さんが、それが分るとお父さんがこっちに頼り過ぎにならないか。まあそういったことを考えていた。……(省略)……

68. 監督 モノローグを行なう主役のダブルをするようにMに指示する。

69. 主役 漫才みたい(全員爆笑)

70. 主役 判定の奴に1遍聞いたらどんな意見言いよるかなあ。

71. M(ダブル) まあ月並なことしか言わないだろうな。

72. 主役 しかしまあ、僕は一寸したらこう巻きこまれて、自分を客観的に見られる立場を失ってるかも分らんから、まあ1遍報告しておこうかな。その上でまた……

73. M(ダブル) しかしよく考えてみると、あのおやじさん(父親)は完全にこちらの方に頼り切りになるタイプでもないんだけど

74. 主役 しかし、そういうこともあるから、もう一寸これを続けて、こちらから母親に対して積極的に出ずに、おやじさんの方を、まあ段々葛藤状態にするから、もう一寸続けてみると、おやじさん自身がひょっとしたら、積極的に

母親の里の方へ出向いていくようになるまで続けておいたほうがいいんじゃないかな。そういうことも考えられるし。しかし、その方が僕としては楽なような気がするから、まあそれも判定(判定員)の出かたでどうなるかわからないけれども、僕としては、もうしんどいついでに両方やってもいいような気がするし……(省略)……

(省略)

75. 主役 ……(省略)……弟の居候が関係しているらしい。叔母さんを問題の中心だと考えていたのは、あまり考えすぎてたんじゃないか。

(省略)

76. 主役 僕はやはりあれかなあ……子どもも母親の愛情を弟にとられたと思ってるように、このおやじもやはり、その、妻の愛情を弟にとられたと、その憎しみがあって……(省略)

(Mの叔母に対する固定観念)

77. M(ダブル) むしろ逆も考えられるのではないかなあ。……(省略)……叔母さんがどうもいろいろ

78. 主役 叔母さんはそんなに問題じゃないような感じもするんだけどなあ

(省略)

79. M(ダブル) 第三者である筈の叔母さんが横槍を入れると……

(省略)

(児童相談所のケースカンファレンスの上演<sup>①</sup>)

80. 主役 この間のケース、いろいろ考えてみて、僕自身のその、あの間違いがね……はじめY先生<sup>②</sup>に見てもらって、いろいろごちゃごちゃとして、その、どっちも押しつけになって、僕自身、こう責任感がね、あまりやってやろうという気持ちが出て来ましたから、そこまで来るのに案外長引いた感じを持ってらるんですけどね。確かに自身のケースだいう感じだったのは極く最近ですわ……(省略)……

(省略)

① case conference ケース会議

② 心理判定員。

81. 主役 僕は思ったのは、子どもらY先生にまかしてね、プレイ<sup>①</sup>でも持って  
もらって、僕が大人の方を分担やろうやないか言って、言うとったんやけど、  
そういうふうになつたらなあと思つたんやけど、まあ、よう気がついてみ  
たら、結局、福祉司指導<sup>②</sup>になつた。これを僕が自覚しなかったのが悪かつ  
たと思ってますね。ねえY先生。

(Mの母親への同情) (抜萃)

82. M この家庭の場合は、最もその受容ってものを必要とするのは母親でし  
ょうね。

83. M 家族の他の人達から殆んど馬鹿扱いにされてるわけでしょう。

84. M 叔母さんから、そこにいるにも拘らず、びしびし言われていたわけ  
ですね。

85. M やっぱり、母親と個人的に面接することが必要。

86. M しかも姑と小姑がすごくやり手で、なにか立つ瀬がないっていうよう  
な。おまけに、夫からも同調されてね。

87. M ……僕は母親の立場に立ったら、実に不愉快ですね。

88. M 僕が一番この話、聞いていて一番気になってることはね、やはり、こ  
れは、世間的に言うとな、嫁、姑の関係だと思うんですけどね……叔母さんさえ  
離れてくれれば、あとはうまく行くんじゃないかと思う。

89. M 母親にとっては、その家庭は四面楚歌だね。

90. M しかしある意味では、お母さん頼りなさそうの方がよかったのかもし  
れませんか。あんまりこう……やると、家の中それこそひっくりかえってしま  
う。

91. 主役 僕は叔母さんが多少介入してもね、別に夫婦の間がある程度深かつ  
たら、どうもないやないかって気がしますがね。……(省略)……

92. M 姑と嫁の関係はむづかしい。

(第2回心理劇上演の概要)

① Play Therapy 遊戯療法。治療者と子どもの遊びの関係を通して、子どもの人  
格の成長、発達を促進させ、適応性を回復させる方法。

② 児童相談所において、福祉司が継続指導を行なうケース。

1. 役割演技への抵抗はなお強いが、モノローグ、家庭訪問場面の劇化は成功する。
2. 叔母への受容性が回復され、問題の焦点が母親の弟と家族との関係に移る。
3. 実家に帰ってしまった母親との関係の持ち方についてのアンビバレンスに言及する。

## V 考 察

1. 2回の心理劇を通じて見ることでできる最も特徴的な問題点の1つは、主役が第1回心理劇で叔母への拒否感情を十分に展開したために、受容性の欠如を洞察するに至ったことである。その結果、その後の叔母との面接が非常に改善されたことは収獲の1つであった。
2. 叔母への受容性が回復されると同時に、第1回心理劇以前に既に面接している父親が、次第に主役の意識の焦点に合わされるようになる。そして、第1回心理劇では叔母の問題の比重が圧倒的過ぎて、父親の問題は全然とり上げられなかったが、第2回心理劇では、父親との面接内容、特に父親から見て母親の弟が持つ家族内精神力動が取り上げられるに至る。これは、いわば第1回心理劇を通過することを必然的前提としていたことを意味するかもしれない。父親との面接が第1回心理劇の前にも既に行なわれていたにもかかわらず、その問題点の焦点化は第2回心理劇の前日の父親の面接で初めて可能になったのである。第2回心理劇ではその後のケースワークを両親を中心とする方向に方向づけることができた。それを準備するのに力があつたと考えられる第1回心理劇のもつ意義を理解することは特に重要である。若し、第1回心理劇が行なわれなかったとしたならば、洞察の深化の機会が遠のいたかもしれない。
3. 主役は児童福祉司として、子どもの症状消失を願えば、夫婦の別居を固定化させる結果になるし、そうかと言って家庭を崩壊させる方向に力を貸すわけにもいかないといった自分自身のアンビバレントな感情や、母親の弟をめぐる愛情の葛藤を第2回心理劇で展開する過程で行動化し、言語化することができた。

さらに判定員との葛藤にも触れることができ、その結果、第2回心理劇以

後、父親と母親とに対する積極的な面接を重ね、母親も家庭に戻り、子どもの症状も一度再発するが、間もなく消失するに至った。

4. 主役がその少ない臨床経験年数に対しては、本例のように極めて重症で、複雑な背景を持ったケースを担当するに当って、見通しを持つことが全くできなかったのは、極めて当然のことであり、その意味でもスーパービジョンが時宜を得ていたと考えられる。

5. 録音記録を整理する過程で補助目我の1人、Mの母親や叔母に対する固定観念が著るしいことに気付いた筆者は、41年7月の心理劇研究会でMに指摘すると、その後2～3ヶ月にわたって、強い抵抗が出現し、心理劇に対して否定的態度をとるが、その後で、抵抗の分析の機会に恵まれ、Mは心理劇が自己治療の意味を持つことに、洞察を得るに至る。

6. 第1回心理劇の記録内容と第2回のそれとを比較すると、第1回は、劇化としては不十分であり、言語表現も晦渋であるが、第2回には、相当自由に動け、その上表現も明晰さを増大している。それは、主役の洞察、自発性、創造性の開発と向上を反映しているものと考えられる。

なお第3回心理劇上演については省略した。

#### 参考文献

1. 松村康平 心理劇 誠信書房 1951
2. 宮本三郎 学級心理劇 新書館 1951
3. " 教育心理劇入門 日生心理劇協会 1967
4. アンジュ・篠田訳 分析的心理劇 牧書店 1965
5. Moreno, J.L. Psychodrama I, Beacon House, 1964
6. 玉井収介その他；座談会・スーパービジョンについて、児童精神医学とその近接領域 Vol.2, No.2 1961
7. 深山富男 情緒障害児の養護、養護原理 川島書店 1967
8. Rogers, C.R. The Process of the Basic Encounter Group, in Bugental, J.F.T. (Ed): Challenges of Humanistic Psychology. New York: McGraw-Hill, 1967